



平成9年10月13日  
日本原子力発電株式会社

### 東海発電所の出力降下の原因と対策について

当社、東海発電所（炭酸ガス冷却型、電気出力16万6千キロワット）は、計画出力14万キロワット（1号、2号タービン発電機各7万キロワット）で運転中のところ、10月9日午前9時18分頃、1号タービン発電機の主復水器の真空度が低下し、当該タービン発電機の出力が一時的に6万2千キロワットまで低下しました。このため、空気抽出器復水器冷却管を点検・調査することとし、当該タービン発電機を解列し、同日午後4時30分に電気出力を8万3千キロワットに降下しました。（10月9日発表済）点検・調査の結果、当該空気抽出器復水器第2段側冷却管1本に管外面からの腐食・減肉による貫通孔（2箇所）が認められ、他の冷却管のうち79本についても同様に減肉が認められました。このため、当該冷却管を含め、減肉の認められたものについても新管に取替えることとします。

また、2号タービン発電機についても点検・調査を行い、減肉が認められたものについては必要な対策を行うこととします。その後、10月25日頃定常運転に復帰する予定です。

なお、本件による外部への放射能の影響はありません。また、資源エネルギー庁による国際原子力事象評価尺度（INES）暫定評価では、評価対象外とされています。

以上